

平成 23 年 12 月 10 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 23 年 第 10 回講話

お早うございます。

先日、映画「孔子の教え」を見に行きました。全体的には纏まっており、面白かったです。ただ映画自体を楽しむのは良いのですが、映画の中に出ている事は色々脚色されていますので、それを事実だと思って見ると怖いです。

少々触れますと、南子夫人は色気の多い女性の話として出ていまして、孔子が「我いまだ徳を好むより色を好むことはなし」と言う科白があります。(徳のある人物は素晴らしいがそのような人は見た事はなく、素晴らしい事を言っても表面的な事だけとっています)

論語とは別の資料で残っているのですが、衛の靈公は妃の南子にぞっこんで、南子のご機嫌を取ろうと思い、自分と同じ馬車に南子を乗せて市中を見回り、その時に後ろのお付きの車に孔子を乗せ、「私のお供に孔子をつけ孔子を家来にしたのだ」と南子に自慢をしていたとあります。孔子はその時少し腹を立てたので、このような文章を残したという解説があります。論語の中でこういう話は滅多に出てこないのでも触れておきます。

渋沢栄一がこの文章を論語講義の中で付け加えているのですが、「色」を「利」に変えて読みたいと書いてあります。渋沢栄一が 85 歳の頃、「私の所に朝から晩まで老若男女が相談しに来ます。全員どうしたら儲かりますかと云う話ばかりで、明治の御世になったとは云うが、利益利益ばかりの相談毎で「色を好む」より「利益を好む」とこの章句は変えた方が良い」と書いています。この時代頃から利益追求が表面化して強くなってきました。

現代でいけば、〈お金があれば何でも買える〉という風潮で大変な事だと思います。

書籍紹介

株式会社イースクエア前社長のピーダーセン氏が個展を開いたので出掛けて来ました。ピーダーセン氏が書いた本『拝啓ニッポン殿 - デンマーク青年が見た日本の姿 - 』を戴いたのですが、外国人から見た日本人と云う内容で面白かったので御紹介致します。あと、会員さんからお借りした『日本再創造』の本も面白かったので、あわせて御紹介致します。

日本再創造の本によれば 2050 年にエネルギーが枯渇して世界は行き詰まる。また別の学者が 2050 年エネルギーは枯渇するのと同時に金の価値観が著しく落ち、人類が発明した通貨の価値観が変わる。そのきっかけになるのが 2050 年ぐらいだと云う言

い方をしています。2050年はキーワードみたいです。

その本の中で良いなと思ったのは、2050年エネルギーが枯渇すると云うものと、日本が課題を先に片付けていく国だから、世界のお手本になっていく可能性が非常に高いという様な事も含まれていました。例えば、現在の車業界はひとつのエネルギーでより良い効率をあげるよう努力をしています。そうすると将来日本は今の効率をさらに上げていく可能性が高いでしょう。発展途上国は今の3倍ぐらいのエネルギーを使う事になるであろうが、しかし日本が先頭に立ってドンドン技術を革新していけば、人類は何とか生き延びる事が可能なのでは...という日本人にとっては楽しい内容の本になっていました。

恒例の質問

いつもの質問をしますが、今回は師走ですので一年間の事を聞きます。聞いた瞬間に閃いたひらめきでお答えください。

今年一年間嘘を吐く事が少なかった？

今年一年間嘘を沢山吐いた？ - これはいませんね

今年一年間有難う言われるのが多かった、また言われるのが少なかった？

今年一年間健康法を実践されていた人？ - 何もしてない方は来年からは実践されると良いでしょう。

今年一年間良い日だったと思う事が多かった？

今年一年間夜寝る時、明日の事を過去形で考える事ができたか？

どうぞ、この質問を我がものとして活用して下さるよう期待しています。

論語 子罕 第九

【七】子曰く、吾知る有らんや。知る無きなり。鄙夫有あり、我に問うに空空如たり。我其の両端を叩きて竭くせり。

孔子が言いました。私が物知りだと人は言いますが、そんな事はありません。大変生真面目な態度で私に質問をした人がいたので、私は始めから終わりまで、その人が質問するのを良く聞いて十分に答えました。人から聞かれた時にはそのような態度で臨むのが良いでしょう。

現代は日本の首相達があまりにも酷く、凡庸な宰相が出たことによって、どうも野田首相が真面目に見える。でもよくみると始めは自分の言いたい事を言って最後はもごもごと言って喋らないでいる。孔子の言い方を活用すると良いなと思います。

論語は現代の世の中に照らし合わせて考える。自分自身の判断の材料にする。そのように論語を活用して下さい。

【八】子曰く、鳳鳥ほうちやういた至らず、河か 図とを出さず。吾われ 己やんぬるかな。

鳳鳥はおおとり、図は龜、河は黄河です。

孔子が言うには、瑞兆の兆しが現れた時その国にとって素晴らしい出来事がこれから起きる。その素晴らしい出来事とは立派な王が出現すること。素晴らしい王が出現する時には鳳が舞い降りてきて、麒麟が現れ、黄河からは大亀が現れ、その大亀の背中には神秘の巻物（天下の理）を背負って現れます。その奇跡が現れる時代に、私は生まれているはずなのに、何も奇跡が起きず素晴らしい王も出現しない。私はだいぶ歳をとってきたから、私の人生・時代はもう終わりだなと孔子が愚痴をこぼし、奇跡が起きないのは何故なのかというところです。

【九】子 齊衰しの者しさいと冕衣裳ものの者べんいしやうと瞽者ものとを見るに、之こしやを見れば少しと 雖みも必ず作これつ。之みを過わがぐれば必ず趨いえどもる。かならた

齊衰の者は喪服を着た人、冕衣裳の者は礼服を着た人、瞽者とは代々世襲で音楽に携わる人で、瞽者は自分で眼を潰していました。孔子はその様な人達が居る事に気が付いたら、相手が若い人でも必ず立ち上がり、その前を通り過ぎる時には敬意をもって小走りで通り過ぎたそうです。

その人の前に立つと自然と敬意をもって立つようになる。そういう人がいると良いですね。私は木内信胤先生の前に立つと自然と姿勢が延びました。身についた訓練や教育というものは態度に出てくるものだと感じます。

【十】顔淵がんえん 喟然きぜんとして嘆たんじて曰く、之いわを仰これげば弥あ高く、之いよいよたかを鑽これれば弥き堅いよいよかたし。之これを瞻みれば前まえに在あり。忽焉こつえんとして後しりえに在あり。夫子ふうし 循じゆん 循じゆん 然ぜんとして善よく人ひとを誘みちびく。我われを博ひろむるに文ぶんを以もつてし、我われを約やくするに礼れいを以もつてす。罷ひめんと欲ほつすれども能あたたわず。既すでに吾わが才さいを竭つくせり。立たつ所ところ有りて卓爾たくじたるが如ごとし。之これに従したがわんと欲ほつすと雖いえども、由よし末なきのみと。

弟子の顔回がため息を吐きながら言うには、孔先生を仰ぎみれば高く聳えているし、切り込んでみようと思うが、非常に固くて跳ね返ってしまい切り込む事が出来ない。先生が前に居られると思って見ていると、前に居られる先生が突如後ろに居る。先生は道筋をたてて人を良く導いてくれる。私の視野を広げるのに、また私の知識を整理するのに礼の実習をして教えて下さった。私は学問を止めたいと思うがそれも出来なかった。私は自分の能力を最大限に出し、努力をしたけれども先生が立っている所は高く聳えてなかなか到達が出来ない。先生の教えに良く従って自分のものにしようとする努力したけれども、その手段が良く分からない。

【十一】子しの疾やまい 病へいなり。子路しる 門人もんじんをして臣しん為たらしむ。病へい 間かんにして曰く、久いしきか

な、由の詐を行うこと。臣無くして臣有りとなす。吾誰をか欺かん。天を欺かんや。且つ予其の臣の手に死なんよりは、無寧二三子の手に死なんか。且つ予縦い大葬を得ずとも、予道路に死なんやと。

孔子が重い病気になりました。弟子の子路は、門人を家臣のように装って孔子を誰が見ても立派な人だと思わせようとしてしました。孔子が少し回復した時に、子路は昔から人様を騙すことが多かったけれども、まだそのような事をやっているのかね。孔子が魯国の大臣になった時には家来が沢山いたけれども、今は流浪の身で、家臣がいないのは誰でも知っているのに、何故このような事をするのか。私に誰を騙そうとさせるのか、それは天か。私は偽りの家臣の手で葬式を出して貰うよりは、門人達の手で葬式を出して貰う方が良い。立派な葬式を出して貰わなくても道路で野たれ死にする事はないだろう。そういう自信が私にはある。

【十二】子貢曰く、斯に美玉有り。匱に韞めて諸を蔵せんか。善買を求めて諸を沽らんかと。子曰く、之を沽らんかな。之を沽らんかな。我は買を待つ者なりと。

弟子の子貢が、ここに箱に入った美しい玉があるが、先生は死蔵するつもりか。素晴らしい値段をつけてこれを売いませんかと言う。孔子は売りたいね、是非売りたいと思っている。私を認めてしかるべき値段をつけて買いに来る者を待っている。

子貢が美玉に例えて、孔子に何故自分を売り込まないのかと質問をしているところです。

今の時代ですと、売りこみをする人は沢山います。自分で適正価格というのをよく考えた方が良いでしょう。

平成 24 年の年まわり

60 年前、120 年前の日本はどうであったか、安岡干支学から干支を考えてみていきます。

来年の干支は壬辰（みずのえ・たつ）です。言葉の意味からいけば、壬は孕む、媚へつらう、おもねるといような解釈があります。辰は想像上の生き物・龍を表し、また大はまぐりの意味も含まれます。大蛤は蜃気楼を産み出す力があると言われ、蜃気楼は偽りのものをみせるという意味があります。

文字からみますと、来年は想像妊娠の年まわり。お腹が大きくなったと思うけれども、それは想像だということです。

来年は色々良い話や期待をさせる話が沢山ですが、それは全て蜃気楼で全部消え

てしまう。だからあまり良い話があると思っていると、ぬか喜びに終わってしまう年とお考え頂ければ良いでしょう。

現実にあてはめてみますと、来年は世界全体へドロ沼に浸かっているような状況であり、それを実感出来るかが鍵になります。

ヘドロが足首まで来ている人、腰まで来ている人、首まで来ていると実感した人は、そこから飛び立とうするか、または命綱を見つけて、しっかり捕まろうとした場合にはヘドロ沼から抜け出せる事が可能かと思います。

最初は底無し沼のようなものを考えていたのですが、よく考えてみますと<ヘドロの底あり沼>に来年は入ると思っています。ただ、深いからズブズブと沈んでゆくとそこから脱け出ることが難しい。沈んでゆくと窒息死してしまうような年まわりだと思っています。

今年が辛卯（辛く悲しく惨い）、沢山の生贄の羊が死ぬ年まわりでした。

経済が悪化をした、インフラが壊れた、大震災でとんでもない事になったと実感で転げ落ちている事が分かっています。

来年は転げ落ちてしまって、それが我が身に降りかかってくるものを、まだ対岸の火事だと思っている人は、その現実には自分も入っているとどこかで実感する。実感しない時には<ゆで蛙>になると思います。

<ゆで蛙>とは、かまどに薪を入れ燃やし、水を入れた容器が下からドンドン熱くなってくる。その水の中に蛙がいて、最初は冷たいので問題はなかったが、段々薪が燃えて自分の生活環境が熱くなってきたが、まだ大丈夫、これぐらいなら大丈夫だと思っているうちに、ハッと気がついたら<ゆで蛙>になってしまう。

ハッと気がついた時、飛び出そうと思うが足が萎えてしまい外に飛び出す事が出来ず、最後はゆで蛙になって死んでしまう。

氣のつきかたが遅いと、来年は<ゆで蛙>になってしまうという年になります。ちょっと熱いぞと思った時には、自分で命綱を見つけ、又はそこから飛び出す努力をしていないといけないと思っています。

来年の年まわりがその様な事であれば具体的な事柄ではどうか、60年前はどうであったかを見ていきたいと思っています。

幸いにして60年前のことが毎日新聞で出している写真集に写真と文章が載っていました。それによると昭和27年4月28日に血のメーデーがありました。血のメーデーでは二人亡くなり、千数百人が重軽傷を負いました。検挙されたのが1232名、その後は全員釈放されました。

60年前の日本国内はストライキやデモは普通に行われていて、死亡者も出ていた。当時食べ物が無くなってきて、「汝臣民餓えて死ぬ、朕はたらふく食っておるぞ」とい

う印象的な言葉でプラカードを作ってデモをしていた。ちょっと考えられない科白だと思えます。60年前にそういう事が起きていた事を考えていると、段々世界が又、そのような方向に向かっていると感じます。

現代の日本では TPP が話題になっていますが、これから先の日本も食べ物が無くなると考えていた方が良くと思います。長い期間無いというよりは、一時だけ食料が無くなる。

私は大震災のあと東日本大震災後ガレキの山の中を車で動いたのですが、本当に食べ物が無くなったのは2~3日で、長い人で1週間ほど不足が続きました。本当に必要としている物が無いのは数日だったと思います。

来年食べ物が無くなるといっても、国や自治体を信じていれば自分達で3日分ぐらい用意しておけば生きていける。また1週間備蓄をして少しずつ食べていけば、何とかなるでしょう。誰も信用していなく支えあうつもりもなく、自分だけで食べていくのであれば3ヶ月分ぐらい用意しておいて下さい。

大野参与とお会いした時に、北海道大学の地震火山研究観測センターで出ている内容を教えてくれました。その教授の情報によれば、北海道・東北・東京で地震が来年早々起きる可能性が高いと発信されています。理由は、3月11日の地震と同じ波形がみられる為だそうです。参与の調べによれば2月ぐらいに可能性が高いのでは？と云う事だそうです。最初はネットに詳しく出ていたそうですが、アクセス数が殺到して今ではサラッと流しています。でもそのサラッと流しているものでも役に立つから見て下さいとの事でした。

大震災クラスのものが起きたと云う過程と、TPP なるもので食べ物が輸入されない場合、長期戦で飢えをしのぐには、やはり芋が良いと私は思います。前にも申しましたがモスクワの人達は掘立小屋を作り、芋を自分達で栽培をした人達は助かりました。

ある程度の土地を押さえておく、または農家の人達と仲良くなって物を買入れる。後は日本を脱出して外国に移住してしまう。

来年は自給自足を現実化し、自分で出来るものから始められると良いでしょう。

木内信胤語録

木内先生は「仮説を立てて生きていきなさい」と述べておりました。

今の日本はこのような事だと現実を直視して、来年はどうなるだろう、向こう10年20年はどうなるだろうと自分なりの仮説を立て、その仮説が的中したら、何故的中したのか、それが違った場合は何故かという事を追及していく心の作用が必要だと教わりました。

御手元の語録のコピーを見て戴くと、アメリカは凄い勢いで転落してゆくと書いてあります。来年は誰が見てもアメリカの転落がはっきり分かるとあります。木内先生が仰

られて 20 年という節目になり、アメリカは凄い勢いで転落しているが、マスコミは一切それを伝えていないと書いてあります。マスコミで煽られたものが世間の常識になっていくのが怖い。マスコミが言ったものを自分なりに咀嚼して仮説を立てる必要があります。

平成 23 年 12 月 9 日の読売新聞で「首相の肝いり法案軒並み先送り」とありました。マスコミでは皆出来るかの様に云っていても、やはり眉唾物で聞いていた方が良い。自分で自分の身を削ると押し出して言っていたのに、全部先送りですから...マスコミで言っているもの、政治家の言っているものも眉唾で聞く。

今回のテーマは、それぞれの立場で咀嚼し玩味した上で自分なりの仮説を立てていく必要がある。自分自身で判断基準をもって判断をし、手を打っておく。

来年は各々が各々の立場で仮説を立て、それが現実になるかどうかぐらいまで、または区切りが付くところまで、仮説を追いかけて検証をする事を来年は習慣にして戴くことをお願いして、話を終わらせて頂きます。

来年は、このような年まわりになると思いますが、出来得る限り良いお年をお迎え下さい。